情報論理学

第9回:述語論理の公理系(1)

基礎工学部情報科学科 中川 博之

# レポート課題: 問8-1 (解答)

- ▶ 例にならい, 各論理式の束縛関係を示すとともに, 自由変数を指摘せよ.
- 例) ∀x (p (x,y) → ∃y q(y, y))

- ※束縛関係の 例示は省略
- ▶ (1)  $\forall x \exists y((p(x) \rightarrow q(y)) \rightarrow \exists z(p(x) \rightarrow q(z)))$  自由変数なし
- $(2) \neg \forall x \exists y p(x, y) \rightarrow q(y) \rightarrow \exists z(p(z) \rightarrow q(x))$
- $(3) \forall y \exists z (\exists x p(x, y, z) \rightarrow \neg q(x, z)) \rightarrow (p(y) \rightarrow \forall x \neg r(x, y))$

# レポート課題: 問8-2 (解答)

- ▶ 各論理式に対して,与えられた代入は可能であるか. 代入可能であれば適用結果を示せ.代入可能でなければそう答えよ.
  - (1) ∀x(∃y p(x, y)→q(y)) に項f(z)を代入
    → ∀x(∃y p(x, y)→q(f(z)))
  - (2) ∀y∃x p(x, y)→q(y)∧¬∃z r(z)∨s(y) に項f(x, z)を代入
    → ∀y∃x p(x, y)→q(f(x, z))∧¬∃z r(z)∨s(f(x, z))
  - (3) ∀y∃x p(x, y)→q(y)∧¬ r(z)∨s(y) に項f(x, z)を代入
    → 代入可能でない (代入指定が曖昧)
  - (4) ∀y∃x p(x, y)→q(y)∧¬∃z (r(z)∨s(y)) に項g(z)を代入
    → 代入可能でない (g(z)が与式のyに対して自由でない)

### レポート課題: 問8-3

- ▶ 以下の各論理式が, (a) 恒真, (b) 充足可能であるが恒真でない, (c) 充足不能のいずれであるかを判断し, 記号で答えよ. (b) である場合は, 真になる解釈と偽になる解釈を1つずつ挙げよ.
- $(1) \forall x p(x) \land \forall x q(x) \Leftrightarrow \forall x (p(x) \land q(x))$
- $(2) \forall x \exists y p(x, y) \rightarrow \exists y \forall x p(x, y)$

# レポート課題: 問8-3 (解答)

- (1): ∀x p(x) ∧ ∀x q(x) ⇔ ∀x (p(x) ∧ q(x))
  → (a) 恒真
- ただし、∀xp(x) ∨ ∀xq(x)と ∀x(p(x) ∨q(x)) は等価ではない
- (2): ∀x∃y p(x, y) → ∃y∀x p(x, y)
  → (b) 充足可能であるが恒真でない
- ▶ ∀x∃y p(x, y)と∃y∀x p(x, y)は等価ではない
  - ただし、∃y∀x p(x, y) → ∀x∃y p(x, y) は恒真

# レポート課題: 問8-3 (解答)

(2):  $\forall x \exists y p(x, y) \rightarrow \exists y \forall x p(x, y) の解釈$ 

- ▶ 真にする解釈
  - ▶ *D*: {0, 1}
  - *C, F*:なし
  - P: p(0, 0) = p(0, 1) = p(1, 0) = p(1, 1) = false
- ▶偽にする解釈
  - ▶ *D*: {0, 1}
  - *▶ C, F*:なし
  - P: p(0, 0)= true, p(0, 1)= false, p(1, 0)= false, p(1, 1)= true

# 述語論理の公理系

- ▶ 述語論理式集合L(C, F, P)に対する公理系Q
  - ▶ C: 定数記号集合, F: 関数記号集合, P: 述語記号集合
- ▶ Qの公理
  - $\rightarrow$  A1:  $P \rightarrow (Q \rightarrow P)$
  - $\rightarrow$  A2:  $(P \rightarrow (Q \rightarrow R)) \rightarrow ((P \rightarrow Q) \rightarrow (P \rightarrow R))$
  - $A3: (\neg P \rightarrow \neg Q) \rightarrow ((\neg P \rightarrow Q) \rightarrow P)$
  - $A4: \ \forall x \ T(x) \rightarrow T(t)$ 
    - ただし, t はT(x)の x に対して自由である項
- ▶ Qの推論規則
  - ▶ B1: PとP→QからQを得る (MP, modus ponens)
  - B2: P→QからP→∀x Qを得る
    - ただしPは自由変数 x を含まない

## 公理A4のインスタンス

- $\blacktriangleright [A4] \forall x T(x) \rightarrow T(t)$ 
  - ただし, t はT(x)の x に対して自由である項
- 例1: ∀x p(x) → p(a)
  - ► T(x)=p(x), 代入: x←a
- ▶ 例2: ∀y q(y, x) → q(a, x)
  - T(y)=q(y, x), 代入: y←a
  - ▶ 限定作用素∀に修飾される変数はxでなくても良い
- ▶ 例3: ∀y ∃x q(y, x) → ∃x q(f(a), x)
  - T(y)=∃x q(y, x), 代入: y←f(a)
- ▶ 例4:  $\forall x(p(y) \rightarrow q(y, z)) \rightarrow (p(y) \rightarrow q(y, z))$ 
  - T(x) = p(y) → q(y, z), 代入: x←t (か何か)
  - T(x)が自由変数xを持たない場合, T(t)はTそのもの

# 公理A4のインスタンスでないもの

- $\blacktriangleright [A4] \forall x T(x) \rightarrow T(t)$ 
  - ただし、tはT(x)のxに対して自由である項
- ▶ 例5:  $\forall y (p(y) \rightarrow \forall z q(y, z)) \rightarrow (p(f(z)) \rightarrow \forall z q(f(z), z))$ 
  - ►  $T(y) = p(y) \rightarrow \forall z q(y, z)$ , 代入:  $y \leftarrow f(z)$
  - ▶ しかし,項f(z)が∀zのスコープに入るため,T(y)のyに対して自由ではない(代入できない)

#### レポート課題: 問9-1

- ▶ 各論理式に対して、公理A4のインスタンスであるかどうかを、T(x)および代入(x←t)が何であるかを示した上で答えよ. (xは別の変数の場合もある)
  - $\rightarrow$  (1)  $\forall x p(x) \rightarrow p(f(a))$
  - $\rightarrow$  (2)  $\forall$  y p(y) $\rightarrow$ p(f(z))
  - $(3) \forall x \forall y p(x, y) \rightarrow \forall y p(f(a), y)$
  - $(4) \forall x \forall y p(x, y) \rightarrow \forall y p(f(y), y)$
  - $(5) \ \forall \ x(q(x) \rightarrow r(x, a)) \rightarrow (q(f(a)) \rightarrow r(x, a))$
  - $(6) \ \forall x(q(x) \rightarrow \forall z \ r(x, z)) \rightarrow (q(f(z)) \rightarrow \forall z \ r(f(z), z))$

# 推論規則B2の適用例

- ▶ [B2] P→QからP→∀x Qを得る
  - ただしPは自由変数 x を含まない
- ▶ 例1: p(a) → (q(x, y) → r(y)) から p(a) → ∀y (q(x, y) → r(y)) を得る
  - $P = p(a), Q = q(x, y) \rightarrow r(y)$
  - ▶ P (= p(a))が自由変数yを含まないため適用可能
- 例2: p(x) → (q(x, y) → r(y)) から
  p(x) → ∀y (q(x, y) → r(y)) を得る
  - $P = p(x), Q = q(x, y) \rightarrow r(y)$
  - ▶ P (= p(x))が自由変数yを含まないため適用可能

# 推論規則B2の適用でないもの

- ▶ [B2] P→QからP→∀x Qを得る
  - ただしPは自由変数 x を含まない
- ▶ 例3: p(y) → (q(y, z) → r(y)) から p(y) → ∀y (q(y, z) → r(y)) を得る
  - $P = p(y), Q = q(y, z) \rightarrow r(y)$
  - P (= p(y))が自由変数yを含むため適用できない
- ▶ 例4: p(y) → q(y) から p(y) → ∀z q(z) を得る
  - P = p(y), Q = q(y)
  - ▶ Qの変数名を変えてはいけない
- 例5: p(x) → (q(x) → r(y)) から
  p(x) → (q(x) → ∀y r(y)) を得る
  - P = p(x), Q = q(x) → r(y) であるが, Qの部分式に適用
  - ▶ 部分式に適用してはいけない

#### レポート課題: 問9-2

- ▶ 各論理式に対して,推論規則B2を正しく適用しているかどうかを答えよ.
  - (1) ∀y p(y)→q(x)から ∀y p(y)→∀x q(x) を得る
  - (2) ∀x p(x)→q(x)から ∀x p(x)→∀x q(x) を得る
  - (3) p(x)→(q(x) →p(y)) から p(x)→(q(x) → ∀y p(y)) を得る
  - (4) p(x)→(q(x) →p(x)) から p(x)→ ∀y (q(y) → p(y)) を得る

### 証明

▶ 命題論理と同様に、公理系Qにおいて論理式Aが論理 式集合Гから導かれる(証明可能である)ときに

 $\Gamma \mid -_{O} A$ 

#### と書く

- ト 特に  $\Gamma = \Phi$  のとき,  $|-_Q A$  と書き, Aを (Qにおける)定理 (theorem)という
- ▶ 以降, 公理系Qは自明として, 「 A と書く
- 公理と推論規則を用いてAを導出する過程の論理式 の列をAの証明(proof)という

# 例4.1.1(1)

- $\rightarrow \forall x p(x) | p(t)$ 
  - ▶ ただし項 t はp(x)のxに対して自由
  - ▶ 1. ∀x p(x) (仮定)
  - 2. ∀x p(x) → p(t) (公理A4)
  - ▶ 3. p(t) (1, 2とMP)

# 例4.1.1(2)

 $\rightarrow \forall x p(x), p(a) \rightarrow q(b) \mid -q(b)$ 

```
 1. ∀x p(x) (仮定)
 2. p(a) → q(b) (仮定)
 3. p(a) (1と先ほどの例4.1.1(1)より) 例4.1.1(1): ∀x p(x) |- p(t)
 4. q(b) (2, 3とMP)
```

#### 定理4.1.1

▶ [定理] 命題論理の定理の命題記号に述語論理式集合 L(C, F, P)の論理式を代入して得られる論理式は証明 可能

#### ▶証明の概要

- か 命題論理の公理が提供する公理,推論規則は述語論理のもののサブセットである
- ▶ その限定的な公理,推論規則を用いて証明できた論理式は同様の公理,推論規則を用いれば証明できるため

これにより、<u>命題論理で導いた各定理</u>が述語論理式の 証明においても<u>利用可能</u>に

#### 例4.1.2

- $(1) \forall x A(x) | -A(x)$ 
  - 1. ∀x A(x) (仮定)
  - ▶ 2. ∀x A(x) → A(x) (公理A4. 変数xに変数xを代入)
  - ▶ 3. A(x) (1, 2とMP)
- $\blacktriangleright$  (2) A(x)  $\mid$   $\forall$ x A(x)
  - ▶ 1. A(x) (仮定)
  - ▶ 2.  $A(x) \rightarrow ((B \rightarrow B) \rightarrow A(x))$  (公理A1)
    - ▶ ここでBは自由変数xを含まない論理式とする
  - $\rightarrow$  3. (B  $\rightarrow$  B)  $\rightarrow$  A(x) (1, 2 $\not$  MP)
  - ▶ 4. (B → B) → ∀x A(x) (3と推論規則B2)
    - ▶ Bを自由変数xを含まない論理式としているので適用可能
  - 5. B → B (例2.1.1と定理4.1.1)
  - 6. ∀x A(x) (4,5とMP)

# 問4.1.1(略解)

- ▶ (1)  $|-A(x_1, x_2, ..., x_m) \Leftrightarrow |-\forall x_1 \forall x_2 ... \forall x_m A(x_1, x_2, ..., x_m)$ 
  - 左辺⇒右辺:
  - ▶ 1. A(x<sub>1</sub>, x<sub>2</sub>, ..., x<sub>m</sub>) (仮定)
  - 2. ∀x<sub>m</sub> A(x<sub>1</sub>, x<sub>2</sub>, ..., x<sub>m</sub>) (1 と 例4.1.2(2) A(x) |- ∀x A(x) より)
  - これを繰り返す
  - ▶ 右辺 ⇒ 左辺: 例4.1.2(1) ∀x A(x) |- A(x) を繰り返し適用
- $(2) \mid \forall x_1 \forall x_2 ... \forall x_m A(x_1, x_2, ..., x_m)$  $\Leftrightarrow \mid \forall x_{i1} \forall x_{i2} ... \forall x_{im} A(x_1, x_2, ..., x_m)$ 
  - ▶ i1, i2, ..., im は1, 2, ..., mの置換
  - ▶ 適用順序を随時変えながら例4.1.2(1), (2)の両方を使う

#### 問4.1.2 (1)

- $A \rightarrow B \mid \exists x A \rightarrow B$ 
  - ただし、Bはxを自由変数として含まない

► 3. 
$$\neg B \rightarrow \neg A$$
 (1, 2  $\succeq MP$ )

► 4. 
$$\neg B \rightarrow \forall x \neg A$$
 (3 \(\begin{align\*}{c} B2 \)

▶ 6. 
$$\neg \forall x \neg A \rightarrow \neg \neg B$$
 (4, 5  $\succeq MP$ )

レポート課題

# レポート課題: 問9-3

- $\mid \mathsf{A}(\mathsf{t}) \to \exists \mathsf{x} \, \mathsf{A}(\mathsf{x})$ 
  - ▶ ただしtはAのxに対して自由

を証明せよ